

作品についてのコメント

冒頭ページ

見ての通りH波文庫です。「かつこいい」「美しい」という感じではないですが、ぱっと見でブランドがわかる点がよいです。グラフィックに頼らず、あくまで文章とその内容で読者の注意を引こうというアプローチに特徴があります。

二枚目以降全体について

「本棚に並べておくと楽しい本」「学術書が多い本棚で見た目のアクセントになる本」といったコンセプトを意識して作成しました。「希哲」を分厚くしたようなペーパーバックを想定していますが、誌面でそれを表現することは叶いません。

『論理哲学論考』

書籍としての『論考』の特徴はなんといっても体裁です。もっと内容に踏み込むべきかとも考えましたが、『論考』を端的にイラストで表現するならやはりこれでしょう。

『名指しと必然性』

本企画を思いついたきっかけは「指示の因果説を図にしたら美しいだろう」というアイデアでした。命名儀式で最初に行われた指示が受け継がれていく様子を表しています。今回のお気に入りです。

『言語行為』

「何かを言うことで何かを行う」という概念を表現しようと試みました。顔や吹き出しの曲線は同じひとつの楕円形を複製し、切り貼りして作っています。こうすると絵にまとまりが生まれますし、何より楽です。